

令和7年度 長崎大学教育学部附属小学校 学校だより

「らしさ」輝く附属小



第2号 令和7年 4月18日(金) 校長 森内 秀学

顔を合わせる 心つながる



北斗の子が6年生になった時の楽しみは、何といても1年生のパートナーがです。左は、出会いの会のひとコマ「自己紹介」。緊張したパートナー同士が、顔を合わせ、互いに自分のことを話すことで、次第に心がつながっていく様子が伝わってきました。

自己肯定感は、人の役に立っていると感じられることで、よりよく育まれます。

特に、異年齢とのかかわりはそれを感じやすいため、本校では、パートナー活動を人格形成の大きな柱として位置付けています。

送別集会では号泣するほどの関係が築かれるパートナー活動。いよいよスタートです。

スマイルチーム活動 始動

特活部の研究部室には、こんな言葉が掲示してありました。「学校は楽しいところではありません。楽しさをつくるところです。」



これを体現しているのが、昨年度から行っている「スマイルチーム活動」。委員会活動をなくし、学校を楽しくするために必要な活動を、やりたいメンバー同士で集まり、(右上)企画運営する取組(左)です。

ただ、この活動の難しいところは、楽しくて目立つイベントには意欲的に参加しても、それを支える地味な常時活動になると、人に任せっきりにする子どもが出てくることです。私は、こうした活動に継続的に取り組めてこそ、人としての資質が高まると考えます。

これから学校にたくさんのスマイルが生まれ、らしさ輝く附属小になるのか楽しみです。



春は、準備の季節

左は、畑を耕す3学年の先生たち。右は、羽化し、飛び立とうと羽を乾かすトンボ。どちらもこれからに備えています。春は、準備の季節ですね。

